

敷島北小学校 学校関係者評価書

令和3年 2月10日(水)

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和3年2月10日(水)午後2時40分～

会場：敷島北小学校図書室

学校関係者評価委員：学校評議委員 飯沼源治 長田知子 高橋みさ子 大館友子

学校側：校長：中村 裕司 教頭 長田 理 教務主任 江頭 祐二

I 学校側から提案された内容

学校側から11月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

① 「自己評価」(教職員アンケート)結果から

I 学校教育目標・学校経営について

若手教員に対し、中堅及びベテラン教員が様々な場面でOJTによる指導さらに協働作業を行う中で学級経営を行っている現状を説明した。

II 学校運営について

学校運営に関わる事項については肯定的な評価が多く、学校が円滑に運営されているといえる。なかでも、「職員会議に積極的に関わっている」「他の職員との相互理解や信頼関係を深めて活動している」等の項目において、職員のA評価の割合は高い。本校は全学級が単学級なので、若手の学級担任と中堅ベテランの支援員やきめ細やか担当、フリーの研究主任がコンビを組み、児童理解・児童指導及び学年経営や分掌業務に取り組むことで、相互理解や信頼関係が堅固なものとなっていることがうかがえる。

III 学習指導について

学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら基礎・基本の定着を図る授業を行っている様子がうかがえる。個に配慮した授業や評価を意識した授業、質問や発言が出てくる授業づくりなどについては、特に若手の学級担任の授業改善に向けての意欲が校内研究活動等を通して、非常に向上し、自己の課題を明確に把握出来るようになってきた。しかし「個に配慮した授業」「質問や発言の出る授業」等の項目については、まだまだ課題が多く、今後ともユニバーサルデザインの授業の構築を推進していかなければならない。外国語指導や道徳教育の更なる深化、取組が遅れているプログラミング教育への取組はさらに研修を深めていく必要がある課題である。

IV 生徒指導について

全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから数年が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。問題行動の早期発見・早期対応を心がけて日々児童の指導にあたっているが、日頃からさらにアンテナを高くし、児童の良き相談者たるべき姿勢を持ち続けていきたい。

V 地域との連携について

本校のPTA活動や地域との連携について肯定的な評価が多く、学校側からも情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただいて貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討したり、教材開発をしたりすることを日頃から心がけていきたい。市全体と比較して積極的な肯定が多いものの、保護者からの要望等の情報収集については、これからも受け身のみにならないような工夫が必要である。

VI 学校の特色に関して

あいさつや読書活動について、児童会や委員会が中心となり取り組みを進めて定着してきているが、教職員自身の指導という視点から見ると、その取り組み方にはまだ向上の余地があるという結果である。

体力向上への取り組みは、スーパー北小タイムで行ったたてわり遊びやなわとびなどの活動が全校に広がり、主体的に体を動かしている児童が多く見られた。

② 「児童アンケート及び保護者アンケート結果」から

学校〔1〕

学校が「とても楽しい・楽しい」という児童は昨年度・今年度とも、9割弱になっている。しかし、一方で、毎年のことだが約1割弱の児童が「あまり楽しくない・楽しくない」と答えており、このことから目を背けてはならない。こういう子ども達をゼロする努力を続けていかなければならない。保護者も約9.4%が「子どもにとって学校はとても楽しい（楽しい）ところだと思う」と答えている。

友達・対人関係〔2～4〕

7割弱の児童が仲の良い友達が「たくさんいる」と回答し「いる」も含めた肯定的な回答は約9.3%になり昨年度と同様となっている。

授業・学習理解〔5～9・11〕

9割近くの児童が「学校の授業は楽しい」と回答し、「先生はよく勉強を教えてくれる」に肯定的な回答は約9.8%にのぼっている。9割前後の児童が国語や算数の授業の内容が「わかっている」と回答しているが、3%ほどの児童は内容の理解が難しいとしている。わからないことがあったときに先生に聞くのは8割弱の児童で、聞けていない児童も2割ほどいるが、昨年度に比べると聞ける児童が7%ほど増え、聞けない児童が7%ほど減った。これは前述したが校内研究活動の成果と言える。保護者は約8割が「授業内容をわかっていると思う」としている。

先生〔6・9・10〕

「先生はよく勉強を教えてくれる」に対して肯定的な児童が約9.8%、「困ったことがあったら相談できる先生がいる」のが7割と、教員に対して好意的で良い師弟関係ができているといえる。

保護者アンケートでは、「学校はとても熱心（熱心）に授業に取り組んでいる」が約9割である一方「子どものことで相談出来る先生がいる」では7割がいる一方で、「いない（あまりいない）」が約1.3%いる。人数で25人という結果に対しては真摯に受け止め取り組んでいかなければならない。

宿題・家庭学習〔12・13〕

約9割の児童は宿題を忘れずにしていると答えている。学年の目標時間の勉強については、いつもしている（だいたいしている）のは約7.6%である。しかし、宿題と家庭学習について、ごく少数ではあるが「していない」と回答している児童もいる。9割の保護者が「やっている（だいたいやっている）」と答えている。

家庭〔14・15・17〕

家の人と学校での様子を話している児童は8割弱であり、多くの家庭では日常的に学校の様子について保護者とやりとりをしている様子が見えがえる。就寝時間については約7.8%の児童は午後10時までには就寝しているものの、午前0時近くまで起きている児童も見受けられる。朝食をいつも食べている児童は昨年度よりも増加し、「だいたい食べている」までを含めると9.5%以上が食べているが、食べていない児童もみられる。

地域〔16・18〕

地域の行事への参加については、保護者も含め、8割近くが肯定的な回答であるが、昨年度と同様、「参加していない」とする回答も約1.5%ある。地域の人とのあいさつの様子は、約8割弱が肯定的である。

読書〔19・25〕

家や図書館での1日あたりの読書時間は、1時間から2時間未満という児童が最も多かった。「全くしない」児童は増加している。本を読むことについて約9割弱の児童は好意的な回答をしており、これまでと同様の高い割合を示している。保護者アンケートでは「こどもは読書が好き（とても好き）」としているのが約6.1%であった。活字離れは、今年度も同様の課題である。

夢・希望〔20〕

将来の夢や希望を「しっかり持っている」「持っている」を合わせると約8.8%である。保護者も約

7割が同様の回答をしている。約12%の児童が「持っていない(あまり持っていない)」と答えている。

きまり・約束〔21〕

学校のきまりや約束ごとを守ることについて、9割以上が肯定的な回答をしている。「よく守っている」は昨年度同様に市全体を上回っている。

勤労〔22・23〕

清掃活動に「しっかり取り組んでいる」「取り組んでいる」とする児童が93%を超え、全校的に、きちんとした取り組みの様子がうかがえる。委員会活動については、取り組んでいないという回答は無く、役割をきちんと果たそうとしている高学年の姿が増えてきている。

聞く・話す〔26・27〕

「先生や友だちの話をしっかり聞く」については、「よくできている」は昨年度と同様で、「できている」までの肯定的な回答の割合は約95%になっている。「自分の考えを話すこと」については、話を聞くことよりも消極的な傾向がみられるものの、授業中の発言の様子よりも肯定的な回答が多く、普段の場面では自分の考えを伝えようとしている姿がうかがえる。

(2) 今後の方針

① 「自己評価」(教職員アンケート) 結果から

- ・ 全学級が単級であり、学級担任の役割や校務分掌の負担が多くなるとともに、他の教職員との連携や意見交換等がなかなか持ちにくい状況もある。児童の指導に担任だけに関わるのではなく、全教職員で敷島北小学校の子ども達を育てていることを、教職員一人ひとりが常に意識し、報告、連絡、相談、確認をお互いに率先して行いながら、共通理解のもとで教職員集団として児童の指導にあたり、よりよい学校運営をめざしていく。
- ・ 児童の行動や状況で問題な点や気がかりなこと等については、職員会議で共有化を図っている。今後も問題行動の早期発見に努めることは当然であるが、その対応には全教職員が同一の方向性を持ち、学校として一貫性をもった指導を行っていく。

② 「児童アンケート」結果から

- ・ 全ての項目で肯定的な回答をしている児童が多いが、項目によっては否定的な回答をしている児童が少なからずいる。そうした状況について全教職員が共通認識をもち、児童一人ひとりに、より一層の目配りや心配りをしながら、情報を共有しつつ、児童の個に応じた指導を心がけて、全校体制で指導にあたっていきたい。
- ・ 多くの児童が、学校が楽しく、勉強もよく教えてくれると評価していることを糧にして、そうした気持ちに応えるべく、児童がより良い学びができる授業や、毎日が充実した学校づくりをしていくために、指導の工夫や改善を積み重ねていくとともに、児童が喜びを感じ取れるような諸活動の運営を進めていきたい。

③ 「保護者アンケート」結果から

- ・ 多くの保護者に、子どもにとって学校は楽しいところであるととらえていただいております。そうした思いをこれからも持ち続けてもらえるように、保護者、地域住民、教職員が一体となり、より充実した教育活動を行っていくために、常にアンテナを高くし、開かれた学校づくりを進めていきたい。
- ・ 保護者が、学校での学習指導や保護者との連携に概ね満足はしているものの、十分な満足までには至っていないという結果を念頭に置き、現状で良しとせず、日頃の1時間1時間の授業を大切に児童の学力の向上を図るとともに、保護者との連絡を密にして期待や希望を酌みつつ、積極的に家庭に学習の様子を伝え、理解を深めてもらうように努めていきたい。
- ・ 人数は少ないものの、保護者アンケートで「D」と回答された項目がある。また、肯定的であっても、全体的に「B」の評価が多くなっている。これは、保護者がより向上することを期待していることの表われとらえることができるが、保護者の期待に十分に答えられていないこともあるといえるだろう。そうした背景を考察して保護者の気持ちを理解しつつ、ともに児童の健やかな成長に寄与できるよう、より一層連携を密にして、改善を図っていきたい。

II 学校関係者評価委員会の様子

学校関係者評価委員会に先立ち、5校時間帯に授業参観の場を設け、学校の現状、児童の様子などを観察していただいた。

◇評価委員の方々からでた質問・意見や感想等

授業や施設見学に関すること

- ・特別な支援を要する児童が多いと感じた。
- ・その中で、それぞれの児童の特性に応じた指導体制がとれており、とても良いと感じた。
- ・校舎が団地方式の構造になっていて、教室配置など大変そうである。
- ・校庭や校地がとても広く、子ども達のがびのびと活動している様子がうかがえて良いことであると感ずる。

アンケート結果及び自己評価書に関すること

- ・児童及び保護者アンケートのNo24「～地域の行事に参加していますか」や自己評価シート〔学校の特色に関して〕No2「～授業参観や～を定期的実施していますか」は、今年度このコロナ禍の中で、ほとんどの地域で諸行事はできなかつたはずだし、授業参観も大幅に削減してきたと思われる。質問に子どもや保護者、教職員はどのような意識でこたえていたのでしょうか？
→今年のことに特化して答えてないと考えられます。
- ・児童アンケートNo22「何時頃寝ていますか」で1時過ぎに寝ている児童が1年生に1名いるが、ほんとのだろうか？→おそらく、マークする箇所をまちがったものと思われる。
- ・自己評価シート〔学校運営について〕No2「危機管理マニュアルを理解しているか」で、〔そう思う〕が〔とてもそう思う〕よりも割合が多いが、マニュアル自体の理解度はどうか。
→マニュアル自体は理解しているが、職員は大きな危機に直面した経験がほとんどなく、実際何らかの危機に遭遇した場合の潜在的な不安がBを選択させていると考えられる。
- ・自己評価シート〔学習指導について〕全部において〔わからない〕が4名程度いるがなぜか？
→直接的・継続的に学習指導を行わない、司書・養護教諭・管理職・きめ細指導担当も回答しているのでその方々の回答が反映されている。
- ・保護者アンケートNo14・15読書・ネット依存関係の項目で児童の回答とズレがあるがなぜか？
→児童が帰宅後、全ての時間を保護者と過ごすわけではない家庭が多く、アンケートに答えるときに児童に聞き取りをする方も多しと考える。また、聞き取りをしない方は、自分がいる時間帯だけで判断されることもあるからであろう。
- ・学校便りで校地内の植物をよく紹介しているが、名前を紹介してあげたらどうでしょう。
- ・「Q-U」検査とはどのような検査か？
→友達関係・学級の雰囲気・学習意欲についてそれぞれの観点での多くの質問に対する回答を数値化し、縦軸と横軸からなる4つの空間の中に児童一人ひとりのその学級内での立ち位置を示すことで、学級や児童一人ひとりの課題を明確にし、課題の解決について試行錯誤をすることができる。
- ・不登校やその傾向がある児童が少なからずいるということだが、どのような様子か？
→それぞれの児童の実態に応じて、担任や特別支援コーディネーター、管理職が連携しながら適切な支援体制を整えて対応している。
- ・あいさつの更なる啓発について、過去取り組んでいた「防犯パトロール隊」を復活させてほしい。黄緑のベストを着ることで、登録したメンバーが地域で子ども達に声をかけやすい。
→どこかで立ち消えた模様。こういった意見が出たことを引き継ぎで伝えたい。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇ 「学校が楽しくない」「仲良く遊ぶ友達がいない」「困ったときに相談できる友達がいない」と感じている児童がいることは課題である。「Q-U検査」の結果等も踏まえて、注意深く見守る必要がある。引き続き、発達段階に応じた指導・支援に力を注ぎ、きめの細かい学級指導をしていく必要がある。
- ◇ 教職員間の共通理解を図り、短期的、長期的両方の視野をもち、さらに充実した指導・支援体制

を築いていくことが望まれる。

- ◇ 本校の実態である「単級」による様々なデメリットの克服に向けて、日々の授業のユニバーサルデザイン化、様々なエンカウンターを活用、様々な子が授業の中で活躍でき「逆転現象」が起こるような授業の構築、Q-Uのさらなる有効な活用等に職員一丸となって取り組んでいくことが大事である。

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 飯沼 源治